

Title	金門の傳統聚落・民居の形成からみた中国傳統建築の精神的背景に関する研究
Author(s)	王, 柏群
Citation	大阪大学, 2004, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/44960">https://hdl.handle.net/11094/44960</a>
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a>〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	王 柏 群
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第 18792 号
学位授与年月日	平成16年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科建築工学専攻
学位論文名	金門の傳統聚落・民居の形成からみた中国傳統建築の精神的背景に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 舟橋 國男 (副査) 教授 柏原 士郎 助教授 鈴木 毅 助教授 木多 道宏

#### 論文内容の要旨

本論文は、急激な近代化が進行しつつある中国における、建築計画ならびに設計における混迷に対し、継承すべき中国建築の本質を解明するために、中国建築の傳統的特質とその精神的背景に関する考察を行ったものであり、全7章からなっている。

第1章では、研究目的を述べた上で、「中国傳統建築」について論じる場合に課題となる基礎概念として、「中国」ならびに「傳統建築」の意味をそれぞれ検討し、本論文における「中国傳統建築」の概念を仮説している。

第2章では、中国傳統建築の特質に関する既往の研究を検討し、対象とする時代・地域・建築物の種類等における差異や見解の相違点ならびに主要論点を示している。

第3章では、中国文化の基底をなし、中国人の生活に密着しつつ現代に引き継がれている漢字に着目し、それが中国傳統建築の形成とほぼ時代を同じくして生成・変化の過程を辿ってきた歴史的事実に注目して、建築ならびにその中核である住居に関連する基本的漢字の形態と意味の生成・変遷を通し、中国傳統建築の特質に関する考察を試みている。

第4章および第5章では、中国傳統建築の特徴を現代に最も良く伝えているとされる、現・福建省金門島傳統聚落及び厝と呼ばれる民居について、現地調査結果ならびに閩南系関連文献・金門学文献に基づく知見を総合し、中国傳統聚落の形成及び民居の構成に関する基礎的な検討を行っている。金門島は、西暦316年(東晉時代)に始まる大陸動乱の際、中原より長江を渡河南逃し一族挙げて南遷移住し、明代にほぼ現存の傳統聚落を形成させてきたが、南遷以来約1700年近くに亘りその傳統を継承してきた歴史の背景を、生活の価値体系とそれを支えてきた礼態・心態を通して考察している。

第6章においては、第3・4・5章の結果を踏まえ、中国傳統建築・民居形成の背景としての傳統精神・思想に関して考察を行い、儒仏道三教の影響、就中、道家的精神としての宇宙観・「陰陽五行観」・「気」、ならびに儒家的精神としての「天」・「天人合一」等の思想的影響について論じている。

第7章は、各章の結果に基づき、中国傳統建築の特質をその時代性・地域性・民族性・精神性・意匠性等の観点から総括し、特に、精神的背景に関して「天」・「徳」・「道」という原理的なものを持つ点に固有の特徴を見いだしている。

## 論文審査の結果の要旨

中国の近・現代建築に見られる様式・デザインの混乱については、かねてより様々に指摘されて久しく、近年の著しい経済発展に伴う建築投資の膨張は、大都市のみならず農村の風景・景観を変貌させつつある。中国建築の真髄・風格・伝統とは何か、その様式・デザイン上の基本的特質は何かという問題は各方面で論じられているが、科学的・体系的な論考は必ずしも充分ではなく、時に表層的視覚デザインの特徴を恣意的に指摘する傾向さえ認められる。本論文は、中国中原（黄河及び長江中流域一帯）を源流とする中国伝統建築の実質的特質を、“生きた化石”として今猶引き継いでいる金門島の集落・民居に同定し、関連文献の精査ならびに現地調査によってこれを把握し、連続と継承されている建築的思考を中国人の精神的背景に遡及して探求し、上記課題に対してより本質的な解明を行おうとするものである。

得られた主な結果は以下の通りである。

- (1) 中国伝統建築の特質に関して、梁思成による中国建築史上の古典的理論が、北方の宮殿・宮廟建築のみに基づいている偏りがあること、長江以南地域を含み、かつ圧倒的多数を占める農村住居を主題的に論じる必要性が指摘されている。
- (2) 中国文化の基底をなす象形文字漢字に注目し、建築ならびに住居に関する基本的な文字について、甲骨・金文以来の形態・意味の変遷を通して、中国伝統建築の特質が考察されている。
- (3) 金門島伝統聚落の形成及び民居の平・断面構成ならびに意匠について、現地調査結果ならびに文献に基づく知見を総合し、集落における特徴的な単姓村を形成させる「聚族而居」の慣習、宮廟および民居の配置原則および各種の禁忌が明らかにされ、更に民居の平・断面構成に関する規則性や数多くの禁忌についてそれらの意味内容と根拠が考察されている。
- (4) これらは、西暦316年（東晉時代）に始まる大陸動乱における中原からの南遷移住以来、約1700年近くに亘りその伝統を継承してきた結果であるが、その歴史の背景を、生活の価値体系とそれを支えてきた儀礼・習俗・礼儀などの禮態、ならびに各種の観念・信仰などの心態の両面から考察されている。祖先崇拜・祖霊信仰を根幹とする「三綱五常」、日月星辰河海山岳崇拜による天神・地祇・人鬼の神霊崇拜、農業社会特有の「安土重遷」「求安不求安」観念等々の影響が明らかにされている。
- (5) これら各種の信仰・観念の背景に認められる傳統精神・思想について、儒仏道三教の影響、就中、道家的精神としての宇宙観・「陰陽五行観」・「氣」、ならびに儒家的精神としての「天」・「天人合一」等の思想的影響が指摘されている。
- (6) 中国伝統建築の特質をその時代性・地域性・民族性・精神性・意匠性等の観点から総括し、特に、精神的背景に関して「天」・「徳」・「道」という原理的なものを持つ点に固有の特徴が見い出されている。

以上のように、本論文は、中国伝統建築の本質的特質に迫るべく、古典的理論の持つ課題、文化的基盤を為す漢字の形態と意味の変遷、伝統的集落および民居の構成等について考察し、それらの精神的背景を抽出しようとしたもので、今後の中国建築の計画ならびにデザイン論に対する示唆を得ており、建築工学、特に建築計画学の発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。